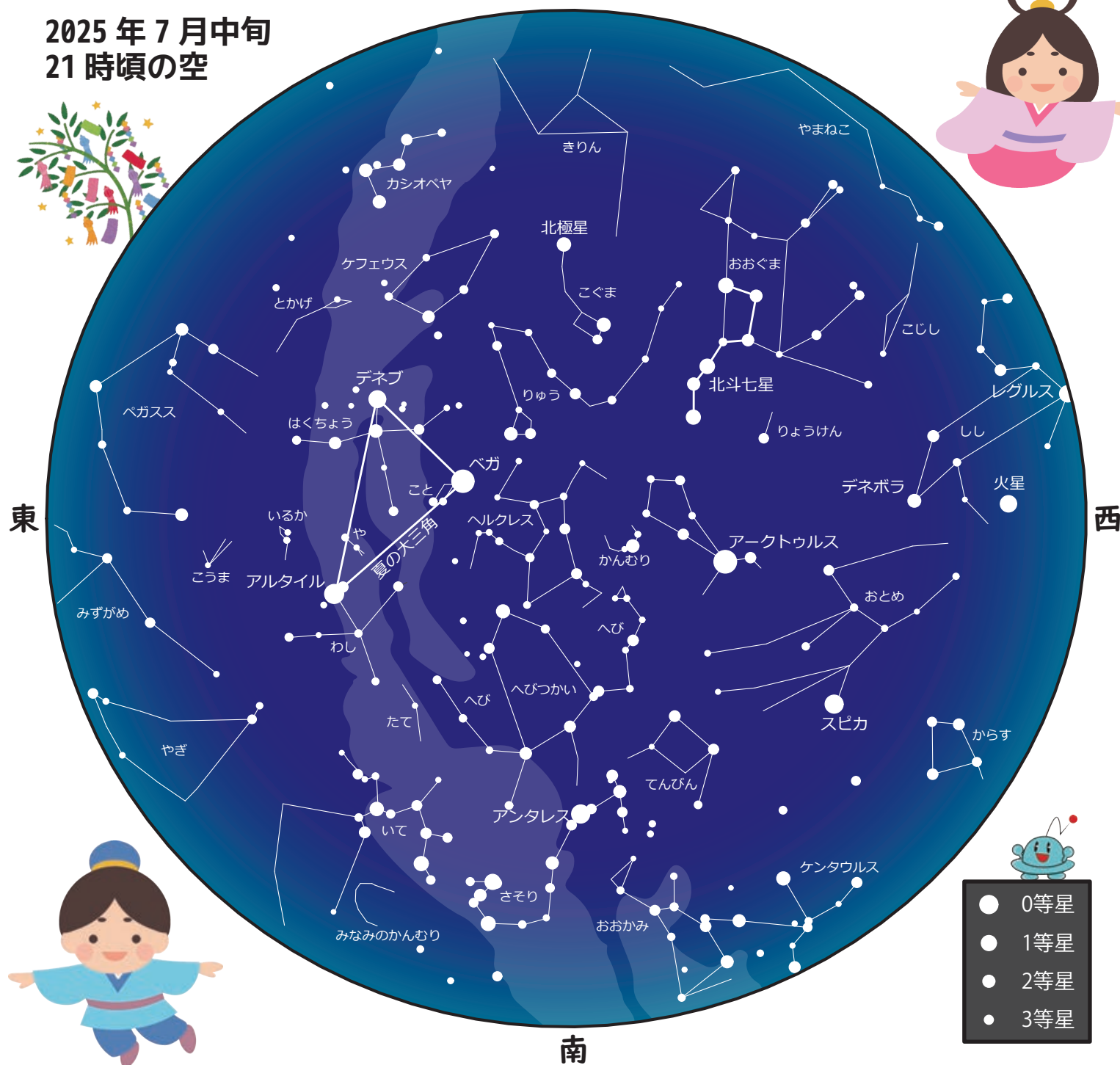


阿南市科学センター 7月の星空案内

北

2025年7月中旬
21時頃の空



- 0等星
- 1等星
- 2等星
- 3等星

南

7月7日は七夕、織姫と彦星が年に一度会うことを許された日。そんな七夕の星たちは南東の空に輝いています。一番明るく輝くのは**こと座**の一等星**ベガ**（約0.0等）で、この星が織姫星にあたります。では彦星はというと天の川の対岸にいる**わし座**の一等星**アルタイル**（約0.8等）です。この二人が天の川をわたって会いに行きますが、普段の天の川には橋がありません。そのため、カササギという鳥が天の川に橋を架けてくれます。このカササギのモデルとなった星座は大きな翼を広げて橋にしてくれている**はくちょう座**。はくちょう座に輝く一等星は**デネブ**（約1.3等）といいます。さてそんな七夕の物語にでてくる一等星を3つつなげると大きな三角形が浮かび上がりまして、これが**夏の大三角**となります。夏の大三角は「サマーライアングル（Summer Triangle）」と海外でも呼ばれており、世界中の夏の夜空の象徴となっています。

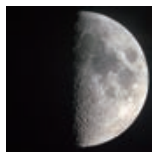
天体観望会のご予約はネットかお電話にて 【毎週土曜日開催！】

阿南市科学センター

電話 0884-42-1600

<https://ananscience.jp/science/>

■ 7月の月の満ち欠けと惑星について



上弦
3日



満月
11日



下弦
18日



新月
25日

7月の天体観望会で月が見える日時は？



7/5(土) 全ての回で観察可能

水星：4日に東方最大離角をむかえ、上旬は夕方西のごく低空に見える。【約0.6等】

金星：薄明前に東の空から昇り、日の出前まで見える（明けの明星）。【約-4.1等】

火星：日没後西の空で見えるが前半夜の前に沈む。【約1.5等】

木星：夜明け前、東の空のごく低空に見える。【約-1.9等】

土星：前半夜に東の空から昇り、日の出前まで見える。【約0.9等】

※惑星の等級は中旬頃の明るさ。水星のみ4日の明るさ。



■ 今月の天文現象

【22日早朝に月と金星の共演】

22日の夜明け前に細い月と金星が近づいて見えます。この日の月は月齢26日と下弦の月を過ぎてかなり細い三日月のような形をしています。また金星は、西方最大離角をすぎたものの、明るさはまだ約-4.0等と近くにある一等星アルデバランの100倍近く明るく輝いているため、一目で見分けることができます。図1は3時30分頃の阿南市の夜空の様子です。月の近くで金星が輝いている姿が見えます。金星自体は7月中、とても観察がしやすい天体です。かといって金星は現在明けの明星として輝いており、朝日が昇る前にやっと昇ってきます。朝早くに起きた人や今日はなんだか寝れないな、といった人などはぜひこの金星を探してみてください。

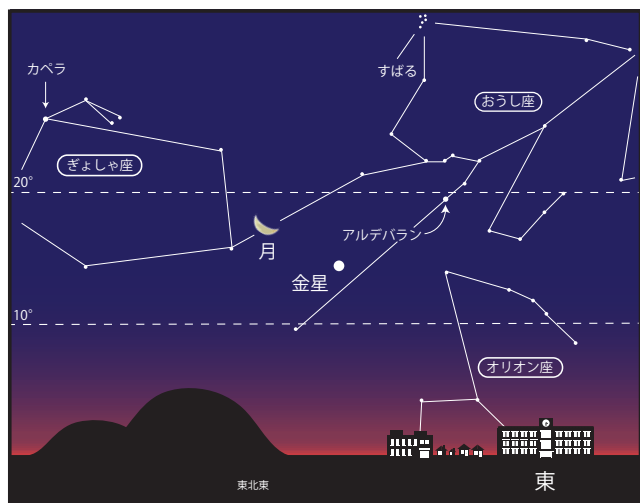


図1 7月22日午前3時30分の阿南市の夜空
(図はステラナビゲータを用いて作成)

■ イチオシ天体写真

【はくちょう座の北アメリカ星雲】



図2 北アメリカ星雲の姿 (photo by K. Imamura).

Z61 MarkII ZenithStar APO (x 0.8) + ASI294 MC pro + L-eXtreme (180sec x 55).

夏の代表的な星座の一つである「はくちょう座」は、天の川に沿うように位置しています。天の川には数多くの星雲が分布しており、図2に示した「北アメリカ星雲（NGC 7000）」もその一つです。この星雲の形が北米大陸に似ていることから、「北アメリカ星雲」という名前で呼ばれています。また、すぐ右隣には「ペリカン星雲（IC 5070）」という天体があり、これら二つの星雲は、天体写真家の間で人気の撮影対象となっています。赤みを帯びた星雲の輝きは、主に水素ガスの発光によるもので、天文学では「電離水素（H II）領域」と呼ばれています。さらに、ここは新しい星が生まれる現場としても知られ、天文学者たちの研究対象となっています。